2027年3月期
第2四半期 決算概要



公式マスコットキャラクター
パンチマン

2026年11月27日

パンチ工業株式会社

（証券コード：6165　東証スタンダード）

2027年3月期　2Q累計決算ハイライト

日本の売上回復が増収を牽引し、前年同期比で増収増益

売上	連結	連結売上高は、前年同期比＋12.7%、26億円増収の231億円
	日本	前年同期比＋14.9%の61億円 市況の回復や営業体制の再構築の効果により増収
	中国	前年同期比＋9.7%の134億円 自動車関連は低調が継続するも、電子部品・半導体関連等でカバー
	東南アジア インド	前年同期比＋29.0%の13億円 現地販売会社をグループ会社化した効果によりマレーシアが好調
	欧米他	前年同期比＋17.1%の23億円 展示会への積極出展や販売代理店との関係強化等により好調に推移
利益		営業利益は前年同期比＋41.6%の1,400百万円 経常利益は前年同期比＋32.5%の1,371百万円 親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比＋45.0%の811百万円
ネット資金		事業収入の増加により、期首から705百万円増加

© PUNCH INDUSTRY

損益計算書サマリー（2Q累計比較）

（単位：百万円）

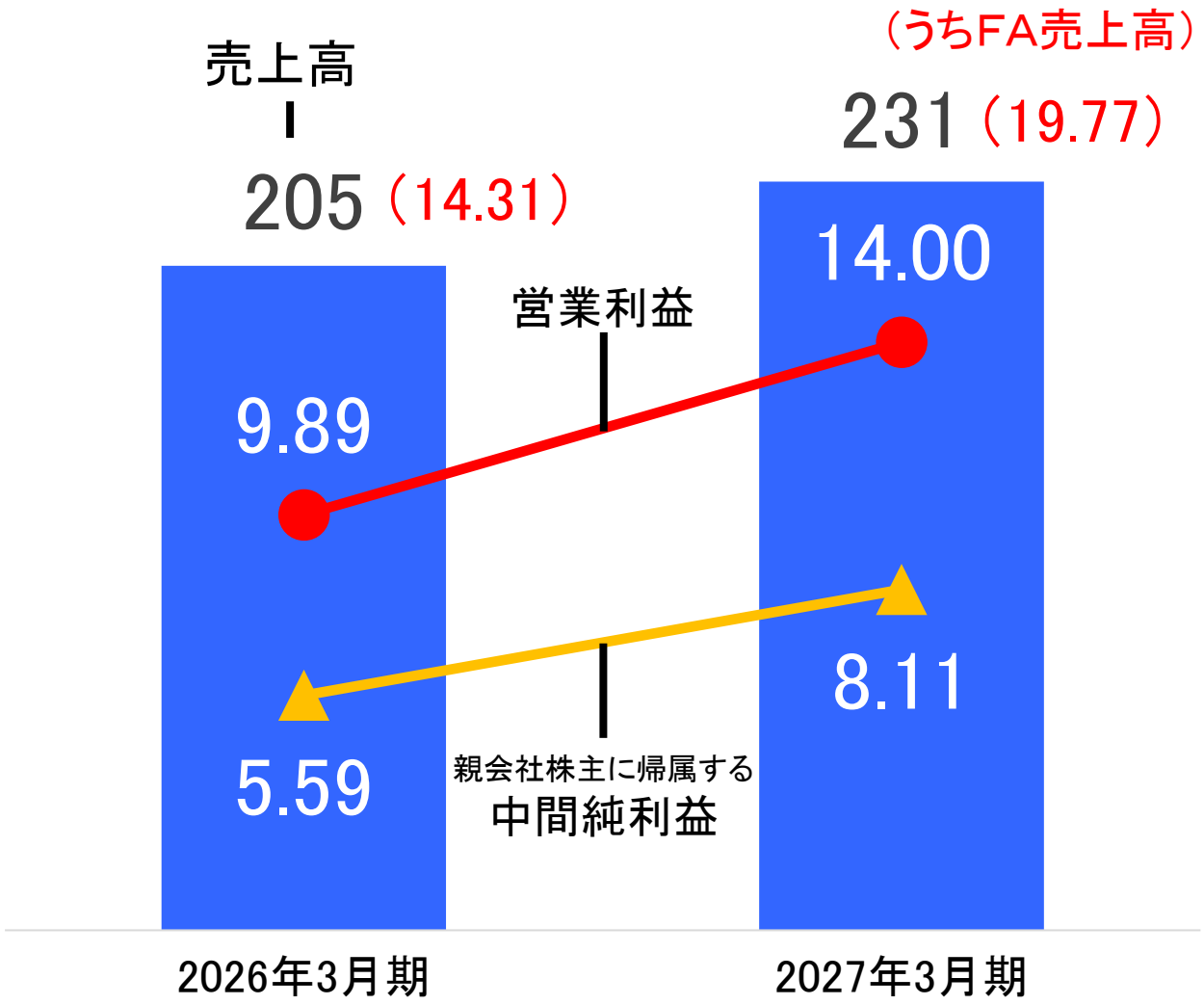
	2026年3月期		2027年3月期		前年同期差	前年同期比
売上高		20,564		23,172	2,607	+12.7%
営業利益	4.8%	989	6.0%	1,400	411	+41.6%
経常利益	5.0%	1,035	5.9%	1,371	336	+32.5%
親会社株主に帰属する中間純利益	2.7%	559	3.5%	811	251	+45.0%

【為替レート（実績）】 1人民元＝23.02円／1USドル＝158.30円

© PUNCH INDUSTRY

売上高と利益（2Q累計比較）

（単位：億円）



【前年同期比較】

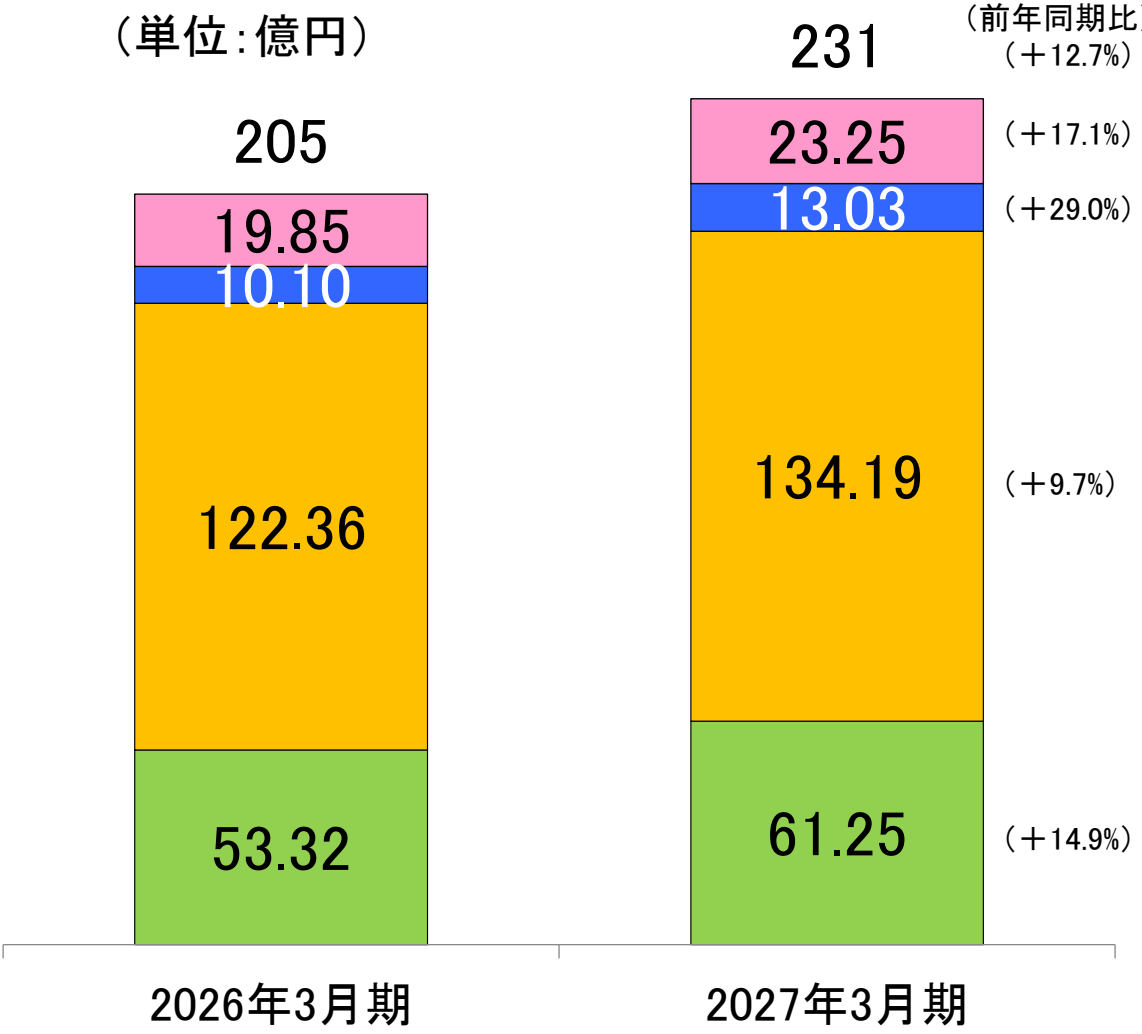
売上高	26	億	07	百万円	増収
営業利益	4	億	11	百万円	増益
純利益	2	億	51	百万円	増益

※親会社株主に帰属する中間純利益

© PUNCH INDUSTRY

地域別売上高（2Q累計比較）

全地域において前年同期比で増収　日本の売上回復が大きく寄与



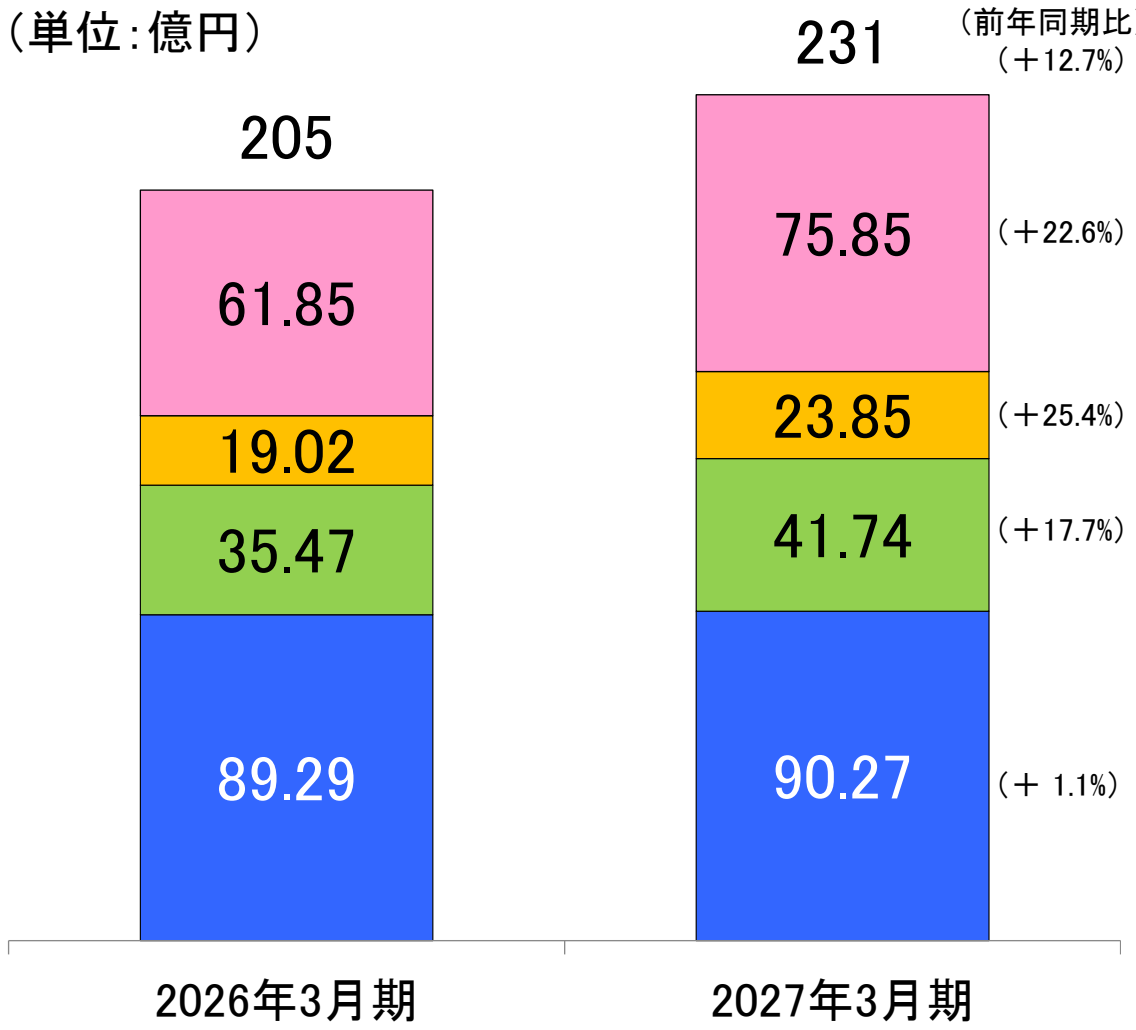
欧米他	欧州が好調、米州は堅調に推移
東南アジア インド	マレーシア販売会社のグループ会社化も寄与 シンガポール・インドネシアも好調
中国	自動車関連は低迷 電子部品・半導体関連や家電・精密機器関連、 注力製品が好調
日本	営業体制再構築の効果により 全ての業種で前年同期比を上回る

© PUNCH INDUSTRY

業種別売上高（2Q累計比較）

自動車関連は中国市場の低迷で伸び悩むも、全業種で増収

（単位：億円）

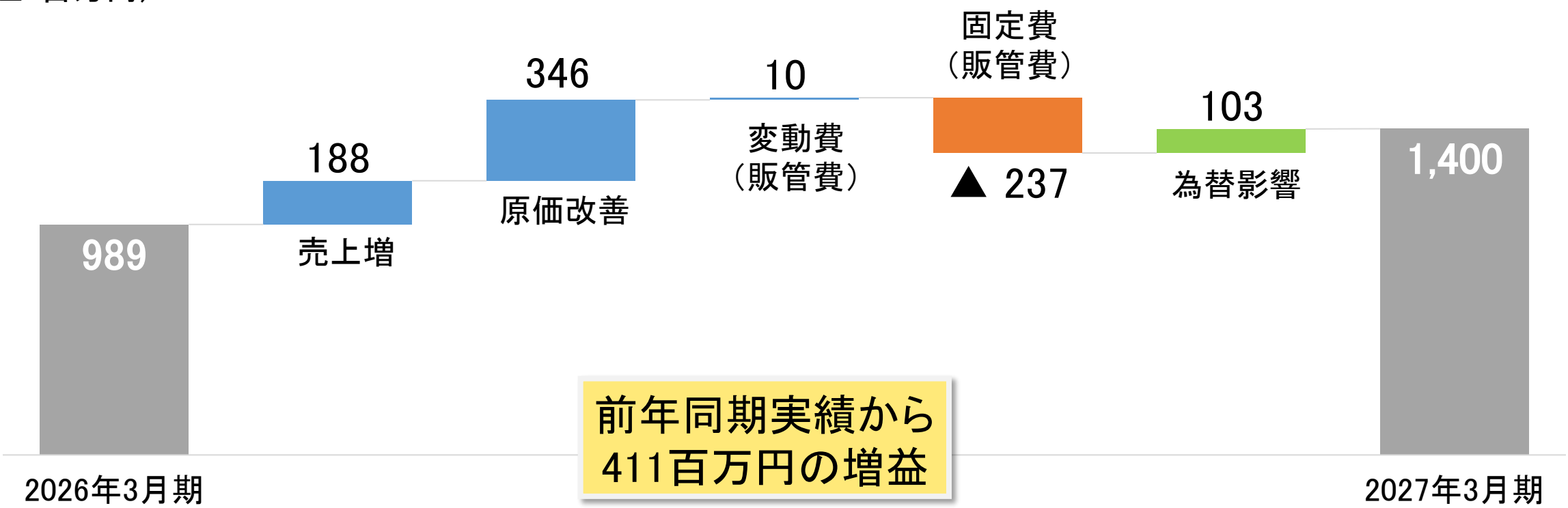


その他	商社経由、日中での医療関連が好調
家電・精密機器	特に中国で好調に推移
電子部品・半導体	データセンター向け需要が好調
自動車	中国は新車プロジェクト減少で減収、日本は営業体制の再構築により増収

© PUNCH INDUSTRY

営業利益増減（2Q累計比較）

（単位：百万円）



前年同期実績から
411百万円の増益

【売上の主な増減要因】

（＋）日本の売上回復が牽引

（－）中国での自動車関連売上が停滞

【原価率の主な増減要因】

（＋）日本や中国の内製売上増に伴う稼働率向上

（－）調達価格の高止まりが継続

【販管費の主な増減要因】

（＋）中国の継続的な間接費抑制

（－）日本での営業体制強化による人件費の増加

© PUNCH INDUSTRY

貸借対照表サマリー

（単位：百万円）

	2026年３月期末	2027年３月期 第２四半期末	比較増減
総資産	34,300	36,412	2,111
総負債	11,220	11,075	▲ 145
うち有利子負債	3,083	2,337	▲ 745
純資産	23,079	25,336	2,257
ネット資金	3,558	4,263	705
自己資本比率	67.3%	69.6%	2.3pt

	2026年３月期 第２四半期	2027年３月期 第２四半期	比較増減
設備投資額（無形固定資産含む）	514	504	▲ 10
減価償却費（無形固定資産含む）	574	640	65

© PUNCH INDUSTRY

キャッシュ・フローサマリー

（単位：百万円）

	2026年３月期 第２四半期	2027年３月期 第２四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	241	1,327
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 502	▲ 536
フリーキャッシュ・フロー	▲ 261	791
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 533	▲ 1,105
現金及び現金同等物の増減額（換算差額含む）	▲ 1,155	▲ 45
現金及び現金同等物の期末残高	5,294	6,387

© PUNCH INDUSTRY

2027年3月期　通期連結業績及び配当の予想を修正

2027年3月期 通期連結業績は過去最高売上高を更新する見通し

（単位：百万円）	2026年3月期（実績）	2027年3月期　連結累計期間			
		前回予想（2026/8/7公表）	修正予想	前期差（前期比）	前回予想差（前回予想比）
売上高	42,100	45,500	47,500	5,399 (+12.8%)	2,000 (+4.4%)
営業利益	4.8% 2,031	5.3% 2,400	5.7% 2,700	668 (+32.9%)	300 (+12.5%)
経常利益	5.2% 2,201	5.3% 2,400	5.6% 2,650	448 (+20.4%)	250 (+10.4%)
親会社株主に帰属する当期純利益	2.0% 851	2.6% 1,200	2.9% 1,400	548 (+64.4%)	200 (+16.7%)
自己資本利益率（ROE）	5.0%	6.8%	7.9%	2.9 pt	1.1 pt
投下資本利益率（ROIC）	7.0%	8.1%	9.0%	2.0 pt	0.9 pt

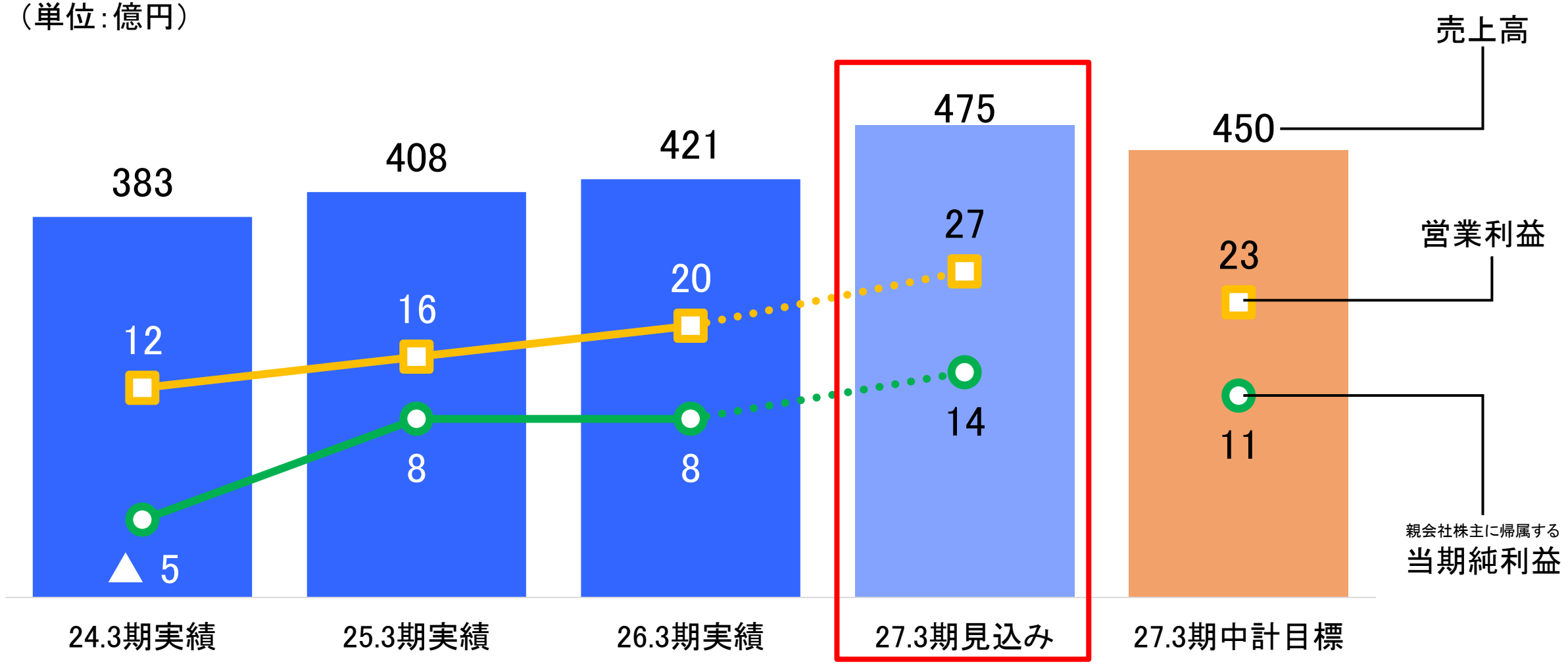
2027年3月期 配当予想	20円30銭（予定）＝ 中間 10円05銭 ＋ 期末 10円25銭

【為替レート】 1人民元＝23円30銭／1USドル＝157円09銭　【設備投資】 設備投資額：16億円　減価償却費：12億円

© PUNCH INDUSTRY

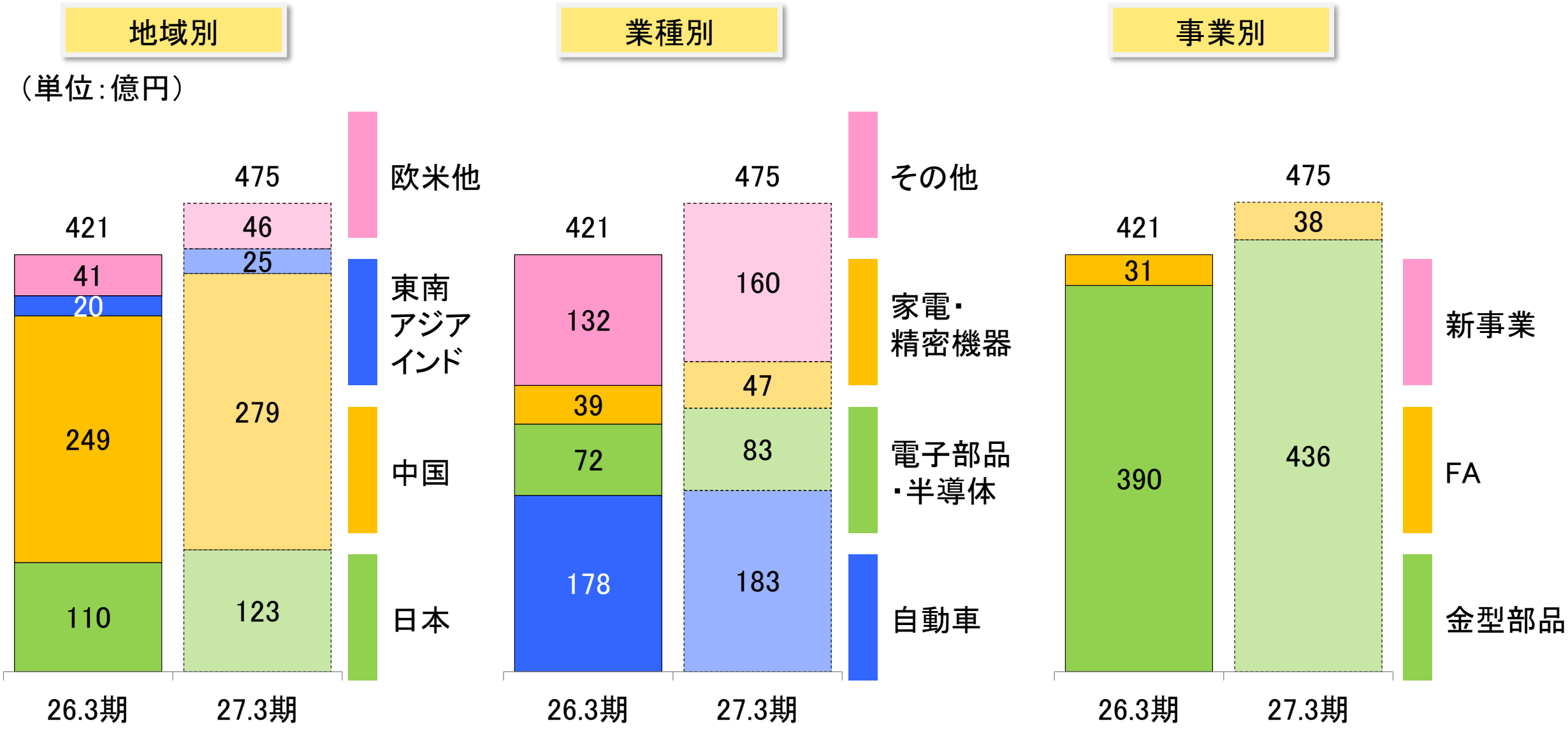
経営数値の推移予想

（単位：億円）



© PUNCH INDUSTRY

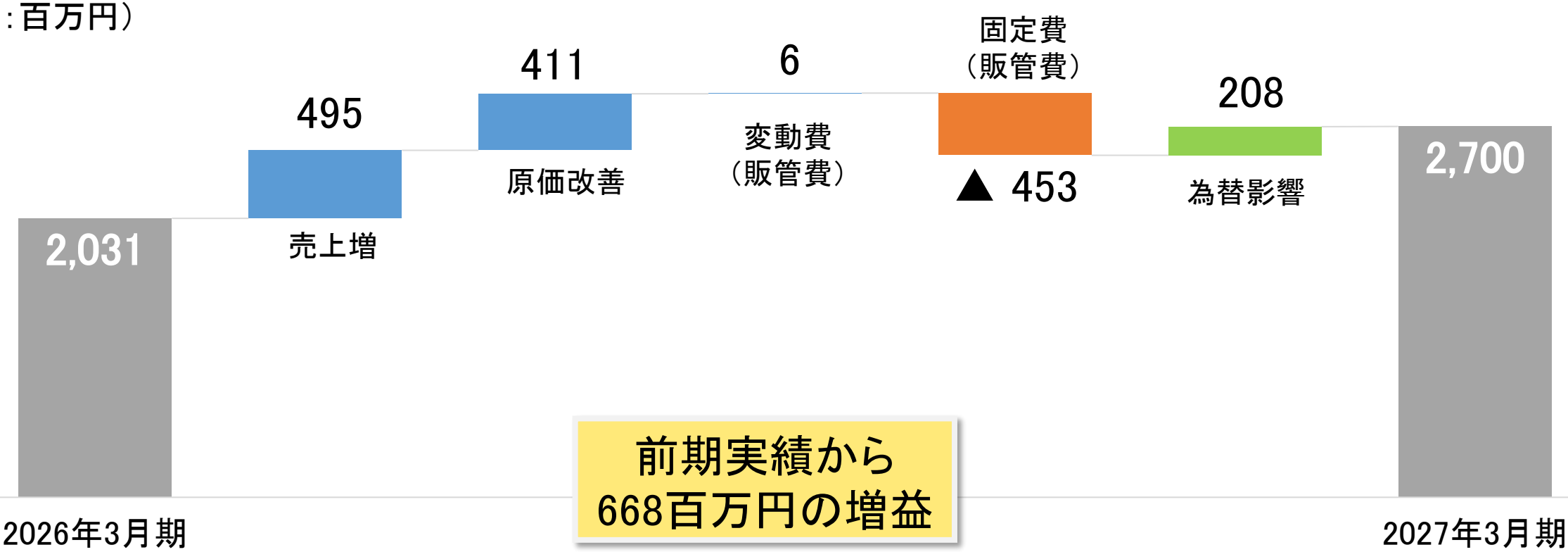
地域別・業種別・事業別売上の数値目標



© PUNCH INDUSTRY

営業利益増減（2027年3月期の業績予想）

（単位：百万円）



前期実績から
668百万円の増益

【売上の主な増減要因】

（＋）日本を中心とした継続的な売上の増加

（－）原材料高騰に伴う価格改定による一時的な離客

【原価率の主な増減要因】

（＋）日本での稼働率向上等による原価率改善

（－）原材料高騰、価格競争激化

【販管費の主な増減要因】

（＋）日本・中国での間接費の抑制

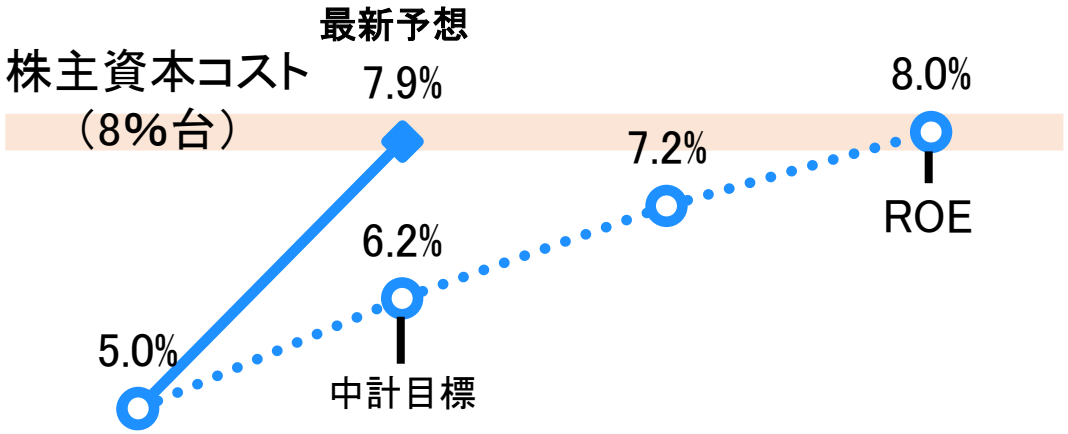
（－）日本の営業体制強化に向けた人員増、投資コスト増

© PUNCH INDUSTRY

資本効率性の数値目標

ROEは中計最終年度目標値の8.0%に迫る見込みで推移

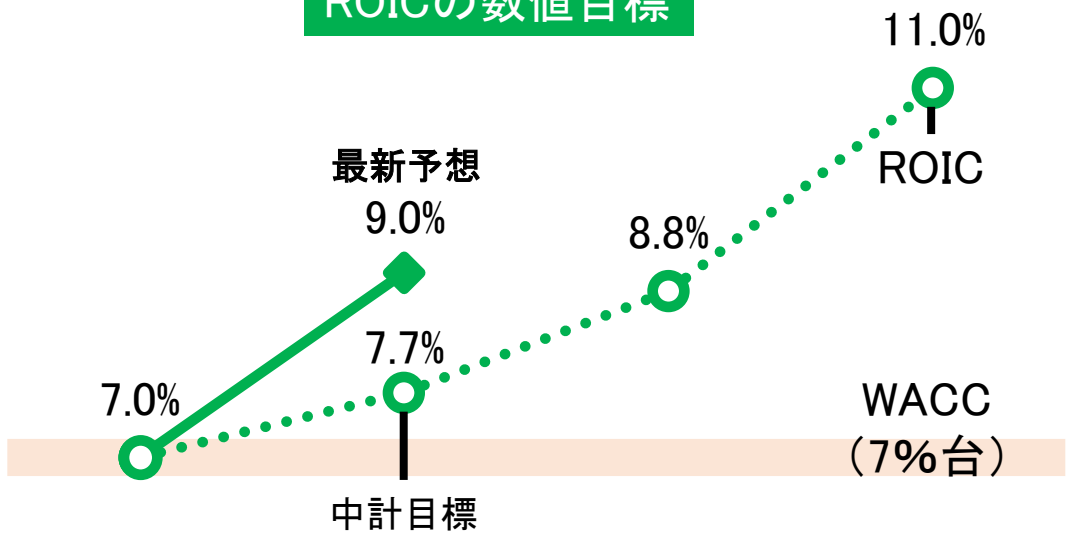
ROEの数値目標



【計算式】ROE＝当期純利益÷株主資本の期首・期末平均

26.3期	27.3期	28.3期	29.3期
実績	VC28		

ROICの数値目標



【計算式】ROIC＝NOPAT（税引き後営業利益）÷（有利子負債＋株主資本）の期首・期末平均

26.3期	27.3期	28.3期	29.3期
実績	VC28		

© PUNCH INDUSTRY

2027年3月期～2029年3月期
中期経営計画「バリュークリエーション28」
取組みの進捗

◆ 本資料内では、中期経営計画「バリュークリエーション（VALUE　CREATION）」を「VC（ブイシー）」と称しています

成長軌道イメージとVC28の位置づけ

強固な金型部品事業をエンジンに、新たな価値創造と事業領域を拡大

VC28（27.3～29.3期）
最終年度目標
売上高　500億円
営業利益　34億円
営業利益率　6.8%

■重点経営課題
- DX推進により、収益性の向上と生産体制の最適化を推進する
- FA事業を第2の収益柱として確立する（M&Aを含む）　※FA（ファクトリーオートメーション）
- R&Dを通じて高付加価値の創出を推進する（宇宙関連分野等）

VC31（30.3～32.3期）
最終年度目標
売上高　650億円
営業利益　52億円
営業利益率　8.0%

VC34（33.3～35.3期）
最終年度目標
売上高　800億円
営業利益　80億円
営業利益率　10.0%

収益性の改善期

FA・新事業・新地域の育成期

FA・新事業・新地域の成長期

© PUNCH INDUSTRY

VC28のエグゼクティブサマリー

「収益性の改善」と「次の成長に向けた基盤構築」に集中

「VC28」の最終年度に目指す姿	ROICは計画期間を通じてWACCを安定的に上回り、ROEは最終年度8.0%を目指す
	安定的なキャッシュ創出と、規律ある成長投資の両立を目指す
	企業価値の持続的向上によって、PBR1.0倍超の安定的達成を目指す

既存事業（金型部品）	特注特化と生産性の向上により、安定したキャッシュ創出基盤を強化
FA事業	自動化需要を背景に、第2の収益柱として本格的に育成
DX・間接業務改革	業務効率化と固定費構造改革により収益力を底上げ
M&A・協業	成長領域への補完投資とシナジー創出を通じ、事業ポートフォリオ高度化

© PUNCH INDUSTRY

VC28の重点施策

VC28は、成長投資の原資を創出する「収益性の改善期」

既存事業の持続的成長

収益性の改善

売上拡大

- ■特注品の拡販
- ■精密微細加工品の受注獲得
- ■地域と業種の絞込営業

収益改善

- ■特注製造特化
- ■海外調達強化
- ■間接業務DX化
- ■ミスミGとの連携で生産・物流の最適化

FA事業の拡大による成長

～脱・金型部品依存～

M&A

- ■総額30億円を投資として想定
- ■資金はフリーC/F、借入の順
- ■シナジー創出の管理強化

事業拡大

- ■FA装置の販売強化
- ■営業の広域化
- ■外部委託先の拡充
- ■Web活用

R&Dによる価値創出

多様なニーズに貢献

P-Bas® 航空宇宙

- ■航空宇宙関連でJAXA連携
- ■M&A検討
- ■硬脆材料・非金属加工技術の革新

新事業

- ■金型派生事業の事業性検証
- ■社内ベンチャー制度導入検討

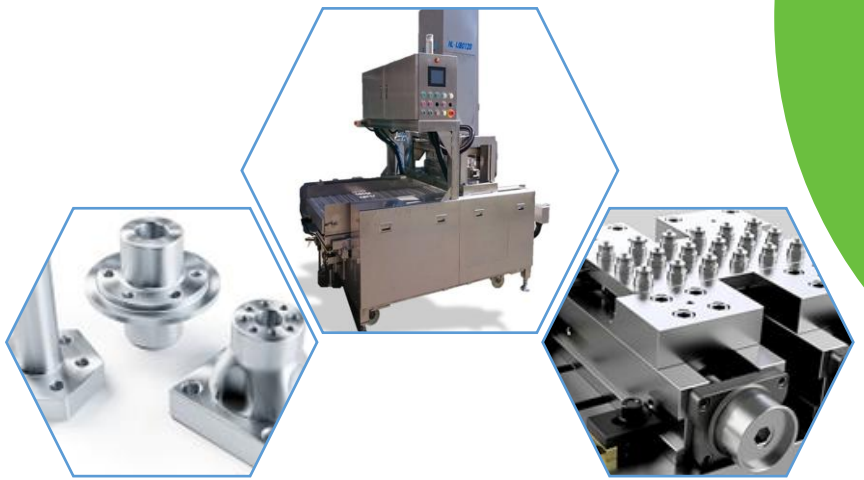
ROIC経営の浸透＋投資判断基準の整備＋人的資本経営の強化　⇒　最適資本構成と財務の健全性の維持

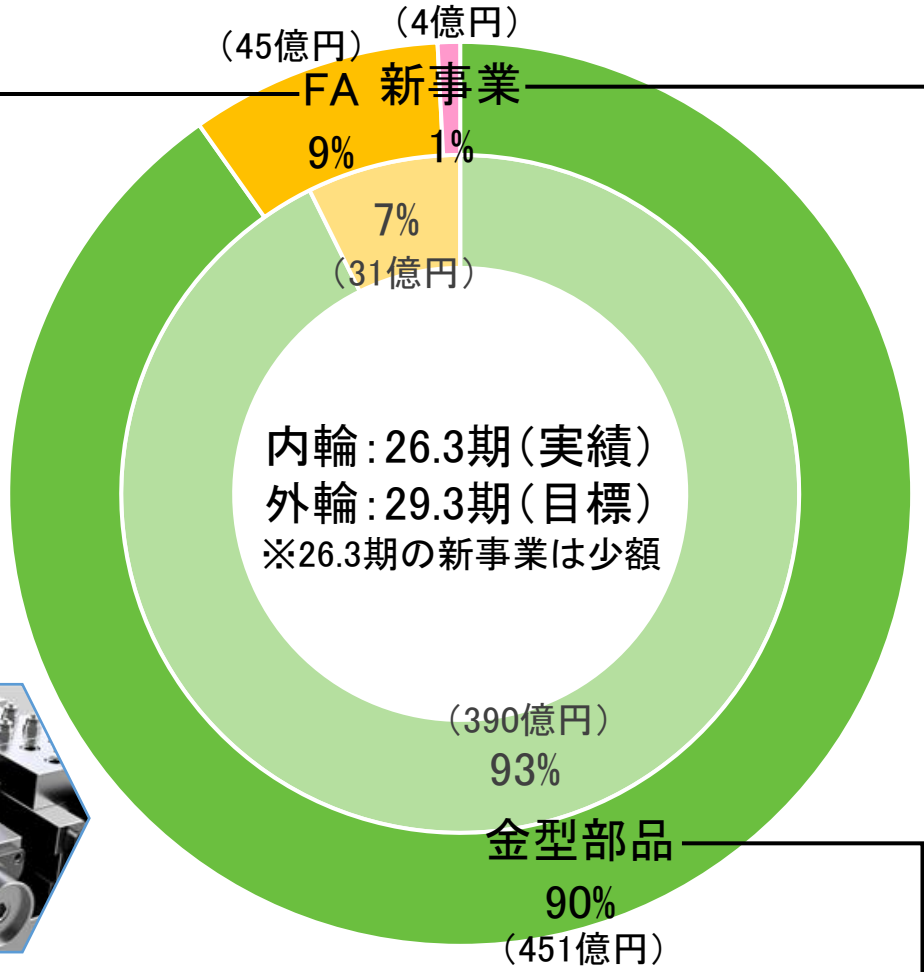
© PUNCH INDUSTRY

事業ポートフォリオ戦略

時代が求める事業の探求と事業領域の拡大を実現

【成長領域】FA事業
- ●事業役割
  - ➢自動化・省力化を軸に、M&A含む資源を最優先投入
- ●事業戦略
  - ➢既存事業のクロスセル深化とM&Aで技術獲得し成長確実化





【将来成長】新事業・R&D
- ●事業役割
  - ➢中長期の成長機会を見据えた将来成長領域であり第3の柱化が目標
- ●事業戦略
  - ➢生産リソースの最適活用
  - ➢技術応用・進化と顧客横展開
  - ➢投資規模を管理しつつ育成推進



【コア事業】金型部品事業
- ●事業役割
  - ➢グローバルで安定した収益を創出する収益基盤
- ●事業戦略
  - ➢特注品特化
  - ➢精密微細加工品の受注獲得
  - ➢DX推進による生産効率改善

© PUNCH INDUSTRY

海外工場での特注強化（既存事業の持続的成長）

中国工場で設備投資を実施し、特注品・精密微細加工品の拡販へ

設備導入・
技術基盤の強化

供給体制の強化

高付加価値
製品の拡販

収益性・資本効率の改善へ

■ 設備投資の内容
- 設置場所：大連工場（中国）
- 設備内容：日本メーカー製 電子ビーム加工機1台
- 取得日　：2027 年7月（予定）

■ 導入の目的
- グローバル顧客（社名非公開）と、生産体制整備の合意済み
- 新規の特注プラスチック金型部品の供給開始、
  既存取引部品の増産体制の整備を実施

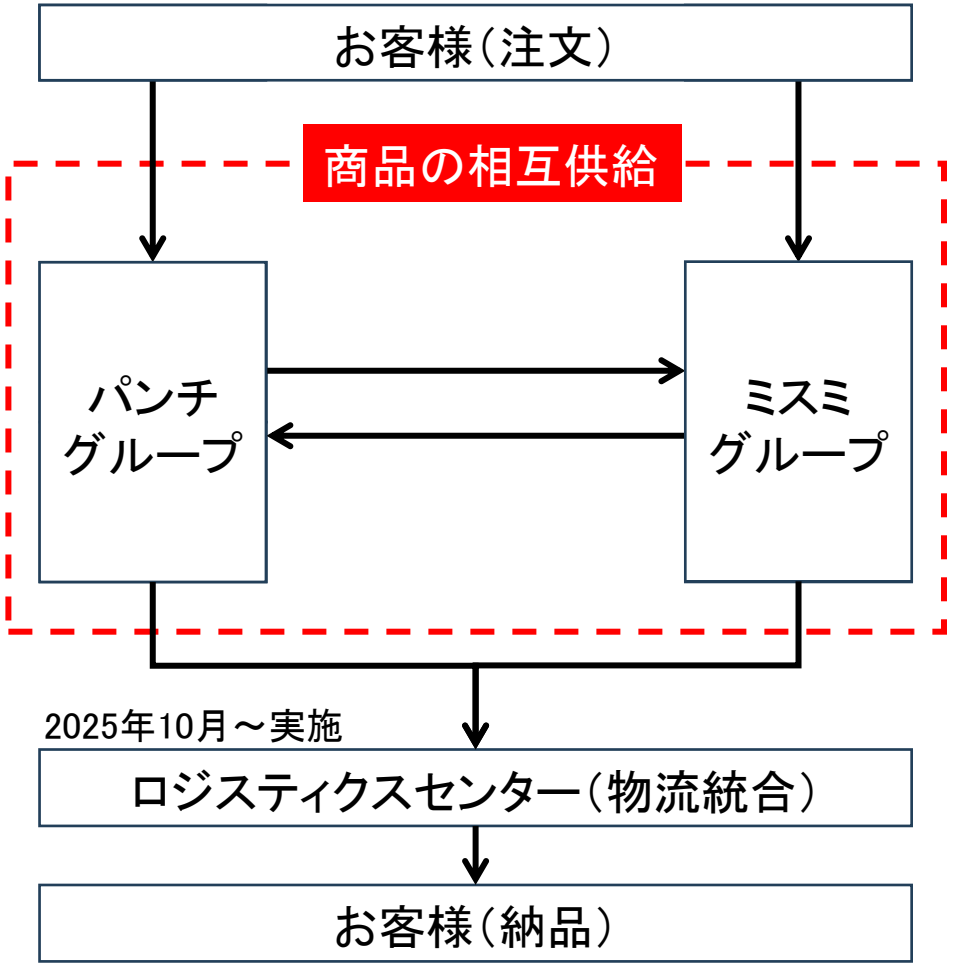
■ VC28達成に向けた効果
- 特注金型部品や精密微細加工品の生産量の増加
- 精密溶接技術の確立
- 精密微細加工品の安定供給
- 高付加価値製品の売上に占める割合の増加

◆ 粗利率の良い特注品へのシフトを通じて、収益性の改善へ

© PUNCH INDUSTRY

資本業務提携（既存事業の持続的成長）

ミスミグループ本社と標準品×特注品の協業でグローバルな安定供給を実現



■ 開始済みの施策
- 標準品の相互供給
- 物流機能の統合(2025年10月～)
- 両社製造拠点の活用、生産最適化(2026年10月～)

■ 準備中の施策
- 標準品の相互供給品目の拡大
- 両社製造拠点の活用範囲の拡大
- 海外市場における協業策の具体化

■ パンチグループが対応すべき事項
- 設備投資・人財育成含めた特注品の生産能力向上
- 特注品取り込みのための営業強化
- R&D強化により事業領域の拡大

資本業務提携の効果として、29.3期までに
累計6～8億円の利益創出（当社単独）

© PUNCH INDUSTRY

FA分野の展示会出展（FA事業の拡大）

ラボ自動化の実機展示やセミナーを通じ、拡販活動に注力



北洋銀行 ものづくりサステナフェア



JASIS 当社社員によるセミナー

■ パンチグループ（当社、ASCe）での共同出展も実施
- 金型部品の既存顧客以外との接点機会の創出
- 「金型部品メーカー」にとどまらない事業領域の顧客ニーズの把握と製品・サービスの改善

開催日	開催都市	展示会名
5/20～22	千葉	インターフェックスWeek 東京（第10回 バイオ医薬EXPO）
6/3	山形	兼松KGK PRIVATE SHOW 2026
7/22	札幌	北洋銀行ものづくりサステナフェア2026
9/2～4	千葉	JASIS 2026
11/5～6	札幌	第40回北海道　技術・ビジネス交流会

第2の収益柱としてFA事業の育成に向け取組みを継続

© PUNCH INDUSTRY

Next Edge Tokyoへの採択（FA事業の拡大）

当社のFA事業が、東京都の成長支援事業に採択決定

STEP1 ●精密金属部品・治工具

STEP2 ●組付け精密部品



精密金属部品

STEP3 ●簡易動力付き装置

STEP4 ●生産ライン装置



ニードルレス
インジェクター

拡大領域

■ Next Edge Tokyoの概要
- 東京都が実施する、都内中堅企業向けの成長促進支援事業
- 経費支援は上限1億円、補助率1/3以内

■ 制度活用による当社の社会貢献
- 人手不足による作業負荷を軽減
- 技能継承・標準化への貢献
- 産業活性化への貢献

■ VC28達成に向けた効果
- 装置一式の販売拡大を通じ、FA事業の「第2の収益柱」への育成を目指す
- 収益性の改善と、次期中計以降の成長に向けた基盤構築を目指す

◆ 部品単品から、機械装置一式の製造・組立・販売へ取組みを強化

© PUNCH INDUSTRY

月面探査車の開発支援（R＆Dによる価値創出）

2025年3月、月面探査車YAOKIの月面稼働に3D計測技術で貢献
今後は精密加工技術を活かしてYAOKI本体部品も提供予定



●2025年3月　月面探査計画 Project YAOKI 1（PY1）
- 宇宙ベンチャーのダイモン社と技術パートナー契約を締結
- 3D計測技術を活用し、YAOKI本体と輸送コンテナの隙間を高精度に計測
- 打上げ・輸送時に機体を保護する振動吸収材の最適設計を支援し、打上げに必要な品質保証要件への適合をサポート
- YAOKIは月面での写真撮影に成功



3Dスキャナによる測定


測定したYAOKIの輸送コンテナ


YAOKI車輪

●Project YAOKI 2（PY2）（進行中）
- 当社は、3D計測技術の提供に加えYAOKI本体に装着するモーター保持の金属部品や車輪本体を開発・加工
- 月面模擬環境での共同実験にも貢献

宇宙産業で得られた技術を既存事業や新事業に活かし、企業価値向上を図る

© PUNCH INDUSTRY

JAXAへの部品供給（R＆Dによる価値創出）

2026年7月、JAXAの再使用ロケット実験機「RV-X」の飛行実験が成功
当社はロケット燃料の注入ホースと機体をつなぐ金属部品の加工を担当





（上）
再使用ロケットRV-X
燃焼実験の様子
提供：JAXA

（下）
当社加工の金属部品

ロケット機体と燃料
注入ホースをつなぐ
重要な部品

●再使用ロケット実験機「RV-X」
- JAXAが研究開発を進める「再使用型宇宙輸送システム」の一環
- ロケットの再使用により、打ち上げ頻度の向上と宇宙輸送コストの大幅低減を目指す
- 宇宙へのアクセス性向上で、宇宙分野の研究開発の加速に貢献
- ハードウェアを繰り返し使用することで、資源消費や廃棄物を削減し、サステナビリティ向上にも寄与

●パンチグループの貢献
- RV-Xに使用される部品のうち、ロケット燃料である液体水素の注入ホースと機体を接続する高精度金属部品を提供
- 燃料漏れ防止のため、接合部を真円度0.001mm単位で精密加工
- 安全な燃料供給・分離機構の実現に貢献

精密加工技術を核に、成長分野である宇宙産業で得られた
技術を既存事業や新事業に活かし、企業価値向上を図る

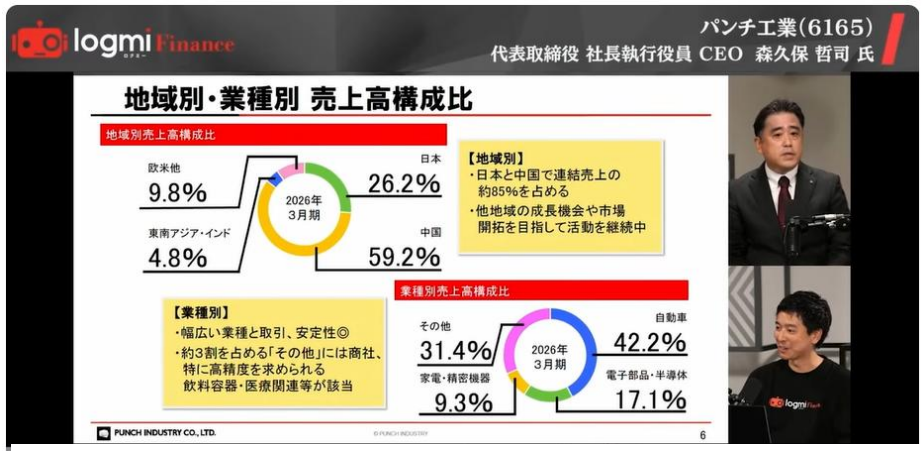
© PUNCH INDUSTRY

投資家との対話の質・量の向上

アニュアルレポートや会社説明会を通じて成長戦略への理解促進を図る



アニュアルレポート2026



9/5　個人投資家向け会社説明会（ログミーFinance）

■ アニュアルレポート
https://www.punch.co.jp/ir/library/#annual
- 2026年8月発行
- パーパス、事業概要、成長戦略（Vision60、VC28）、サステナビリティ等を統合的に紹介

■ 会社説明会　開催実績
- 9/5（土）個人投資家向け会社説明会
  当社公式YouTubeチャンネルでアーカイブ配信中
  https://www.youtube.com/playlist?list=PLHZwJd1gY4RI

■ 会社説明会　開催予定
- アナリスト向け：11/27（金）9:00～10:00（ハイブリッド開催）
- 個人投資家向け：1月 動画公開予定（オンデマンド形式）

- アーカイブ動画公開後は企業Webサイトにてご案内予定
  https://www.punch.co.jp/ir/

© PUNCH INDUSTRY

参考資料

ひと目でわかるパンチグループ



設立
1975年3月

上場
2012年　株式上場 2023年　スタンダード市場

生産拠点	
日本 4カ所	海外 8カ所

金型部品業界のシェア（当社推計）	
特注品 世界1位	カタログ品 世界2位

販売拠点	
日本 11カ所	海外 42カ所

海外売上高比率（2026年3月期）	
日本26%	海外74% （中国59%）

従業員数（2026年3月）	
日本 676名	海外 2,804名

コーポレート・ガバナンス
社外取締役比率50% （取締役会議長は社外取締役）

© PUNCH INDUSTRY

マネジメント体制

代表取締役社長プロフィール

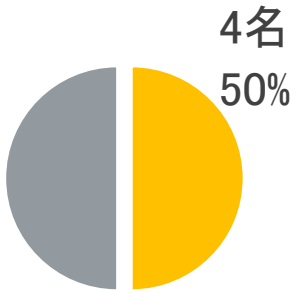
氏名及び生年月日	職歴	
森久保　哲司 （1977年1月22日）	2003年5月	当社入社
	2005年2月	盤起工業（大連）有限公司
	2012年11月	バリュー・クリエーション推進室長
	2013年4月	経営企画室長
	2015年4月	PUNCH INDUSTRY MALAYSIA SDN. BHD.
	2016年5月	執行役員
	2018年6月	取締役 上席執行役員　経営戦略統括
	2019年4月	最高戦略責任者 グループ事業統括
	2019年6月	代表取締役（現任） 副社長執行役員
	2019年11月	社長執行役員　最高経営責任者 グループ経営統括（現任）



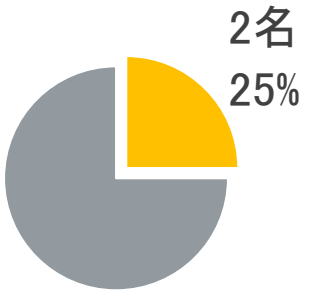
取締役体制

取締役	代表取締役社長執行役員 最高経営責任者（CEO）	森久保　哲司
	取締役上席執行役員 最高執行責任者（COO）	高梨　晃
	取締役上席執行役員 最高財務責任者（CFO）	松澤　靖
	社外取締役	高辻　成彦
	社外取締役　**取締役会議長**	大里　真理子
取締役 （監査等委員）	取締役（監査等委員）	河野　稔
	社外取締役（監査等委員）	鈴木　智雄
	社外取締役（監査等委員）	田畑　千絵

社外取締役比率



女性取締役比率



© PUNCH INDUSTRY

パンチグループ沿革

’70

1975
- 創業、プリント基板用穴あけピン製造

’80

1982
- プラスチック金型部品に進出
（ハイスエジェクタピンの量産化に成功）

1983
- 北上工場設置、金型部品の全国販売を開始

1989
- 宮古パンチ工業（現：宮古工場）設立

’90

1990
- 中国大連に製造拠点設立

’00

2001
- 中国国内に販売拠点設置

’10

2010
- インドに販売拠点設立

2013
- パンサー社（現：マレーシアパンチ）をグループ会社化
- 中期経営計画（以下、中計）策定
「バリュークリエーション（以下、VC）15」

2014
- 東京証券取引所市場第一部銘柄に指定
（2012年東証二部上場）

2015
- ベトナムに製造拠点設立
- 創業40周年

2016
- ベトナム工場、本稼働開始
- 米国イリノイ州に販売拠点設立
- 中計「VC2020」策定

2018
- 中国大連の製造拠点増設

2019
- ベトナム工場　第2フェーズ開始

’20

2020
- 中計「VC2020Plus」策定
- 経営革新プロジェクト開始

2022
- 中計「VC2024」策定
- 株式会社ASCeをグループ会社化

2023
- 中計「VC2024 Revival」策定
- 東京証券取引所スタンダード市場移行

2024
- ミスミグループとの資本業務提携契約を締結

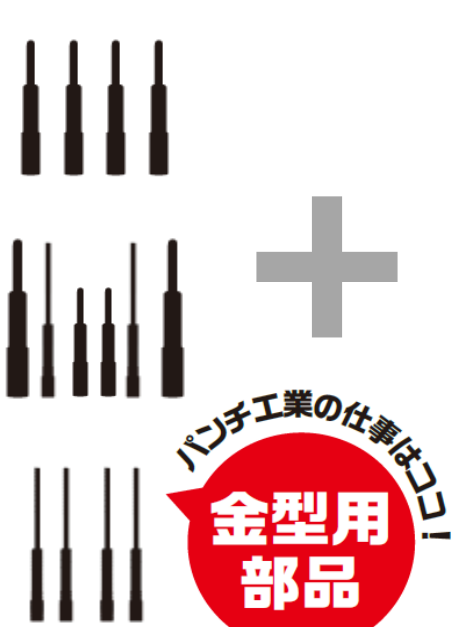
2025
- 長期ビジョン「Vision60」策定

2026
- 中計「VC28」策定

© PUNCH INDUSTRY

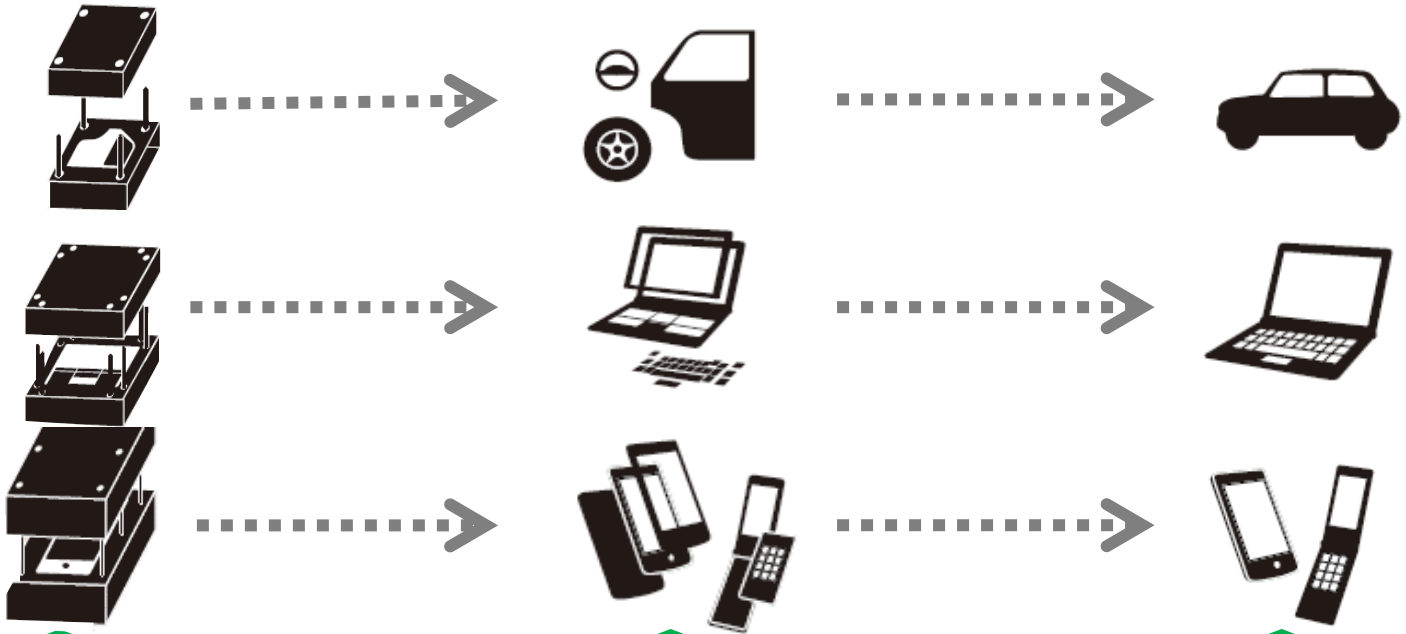
事業内容

金型を構成する「金型部品」を製造販売　豊かな生活を支える「縁の下の力持ち」



たとえばこんな部品





金型

構成部品を速く、均一に、大量につくるための金属でできた「型」

構成部品

製品を構成するために必要となるパーツ

製品

自動車や家電などのさまざまな製品

© PUNCH INDUSTRY

パンチグループの強みとネットワーク

汎用性の高いカタログ品を豊富にラインアップ＆カスタムニーズにも対応する特注品
世界の「ものづくり」を支える

パンチグループの強み

お客様に高い満足度を提供

日本・中国

特注金型部品シェア1位　※当社推計

カタログ品

汎用性の高い標準製品を豊富にラインアップ

PunchCoco OFFICIAL ONLINE STORE



タイムリーで的確なソリューション

一気通貫の生産体制
2,000台の設備で幅広い対応力

お客様密着型の営業体制
きめ細かな対応・提案力

高い技術力
創業以来培ったノウハウとたゆまぬ研究開発

特注品

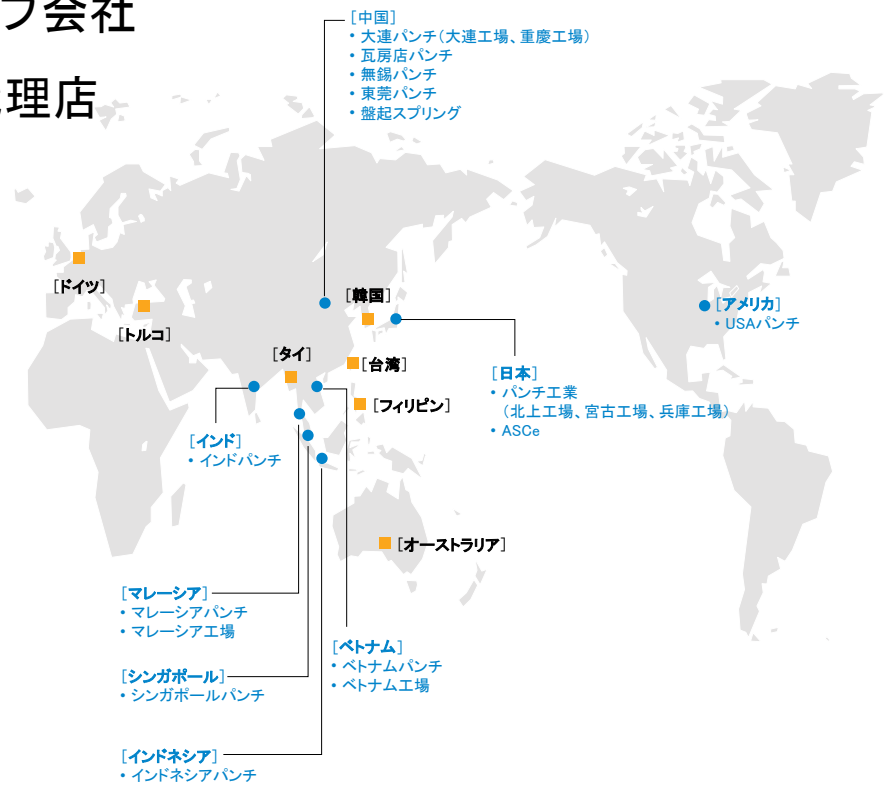
カスタムニーズにも柔軟に対応



パンチグループのネットワーク

グループ会社

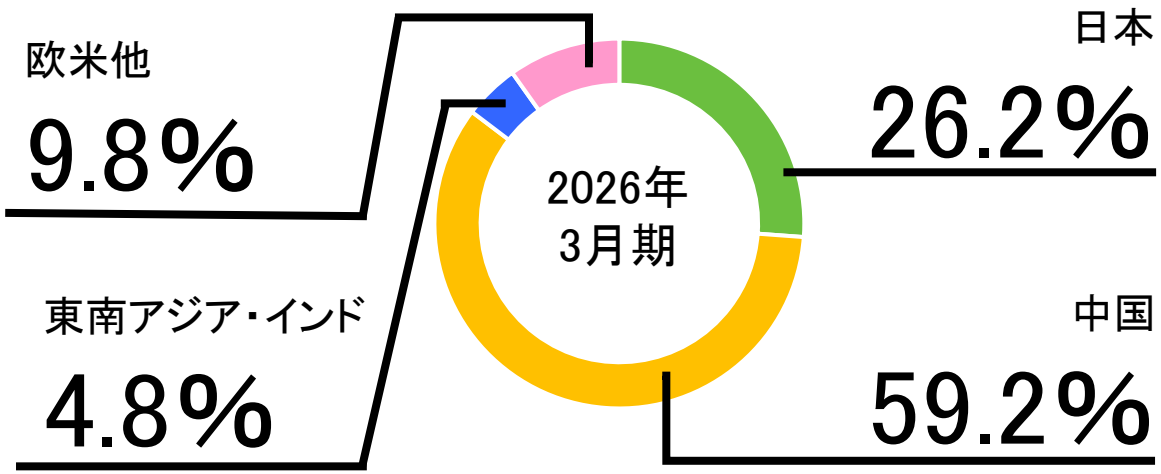
販売代理店



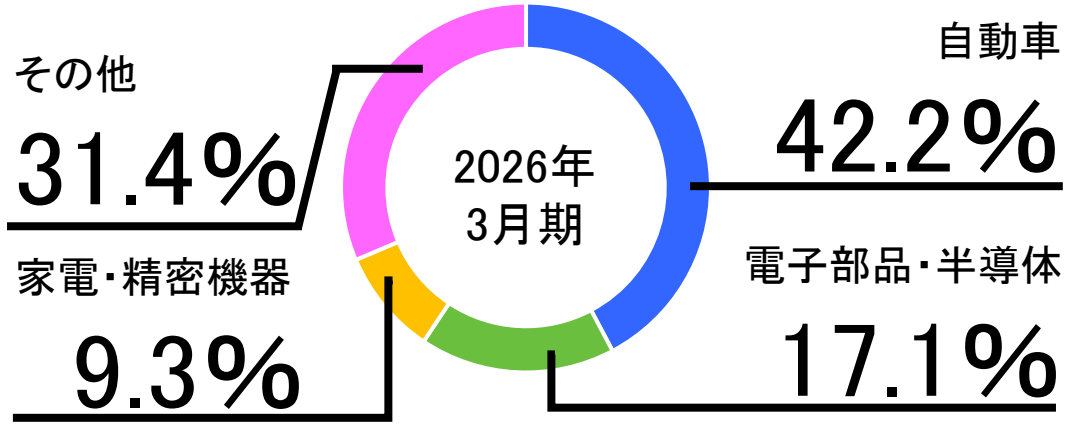
© PUNCH INDUSTRY

地域別・業種別売上高構成比

地域別売上高構成比



業種別売上高構成比



© PUNCH INDUSTRY

業種別の主要顧客

日本での主な競合先：大手総合機械商社、地場金型加工メーカーなど
中国での主な競合先：中華系機械商社、中華系機械メーカーなど



主要顧客

自動車メーカー
及びTier1,2
金型メーカー



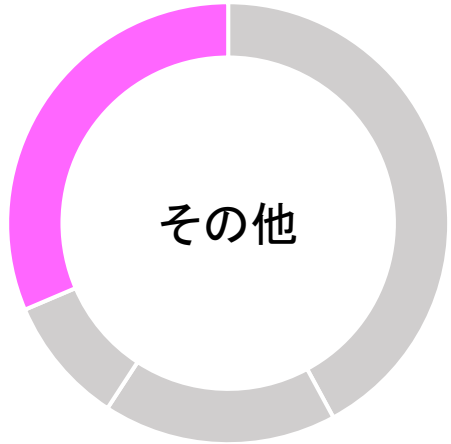
主要顧客

電子部品メーカー
半導体装置メーカー
金型メーカー



主要顧客

家電メーカー
金型メーカー



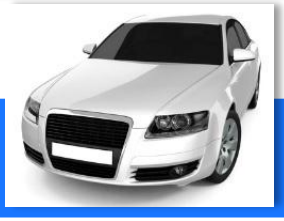
主要顧客

文具メーカー
玩具メーカー
医療メーカー
飲料容器メーカー
グローバル商社
金型メーカー

© PUNCH INDUSTRY

エンドユーザーのイメージ（例：自動車業界）

業界に関わらず、ものづくりの上流から下流までの様々な企業とお取引



自動車メーカー





ボディ・外装・シート・コネクター等のメーカー



金型 メーカー



パンチグループ

© PUNCH INDUSTRY

パンチグループの主要製品

金型部品の販売を通じて、ものづくりの上流から下流までとお取引き
プラスチック金型部品とプレス金型部品を取り扱う

プラスチック金型部品

プラスチック金型は、スマートフォンやデジタルカメラの外装など、多くのプラスチック製品の製造の製造に用いられる。射出成形機に実装された金型に、加熱溶融したプラスチック樹脂を注入して冷却、固化して製品を製造。
当社は、この金型を構成する部品を製造。



主要な製品

エジェクタピン
射出成形された成形品を金型そのものから離し、突き出すための部品（押し出しピン）。



コアピン
製品部を成形する際、コアピンの形が転写される。
製品部に彫刻を施すこともある。

プレス金型部品

プレス金型は、プレス機（上下運動する機械）に金型を装着し、上下に分かれた金型の間に材料となる金属の鋼板を入れ、プレス機を稼働することで、金型で型どられた製品を製造。
当社は、この金型を構成する部品を製造。



主要な製品

パンチ
プレス金型に組込まれる代表的な部品で、金属板に穴をあけたり、形状を転写する。
「パンチ工業」の社名はこの製品名に由来。

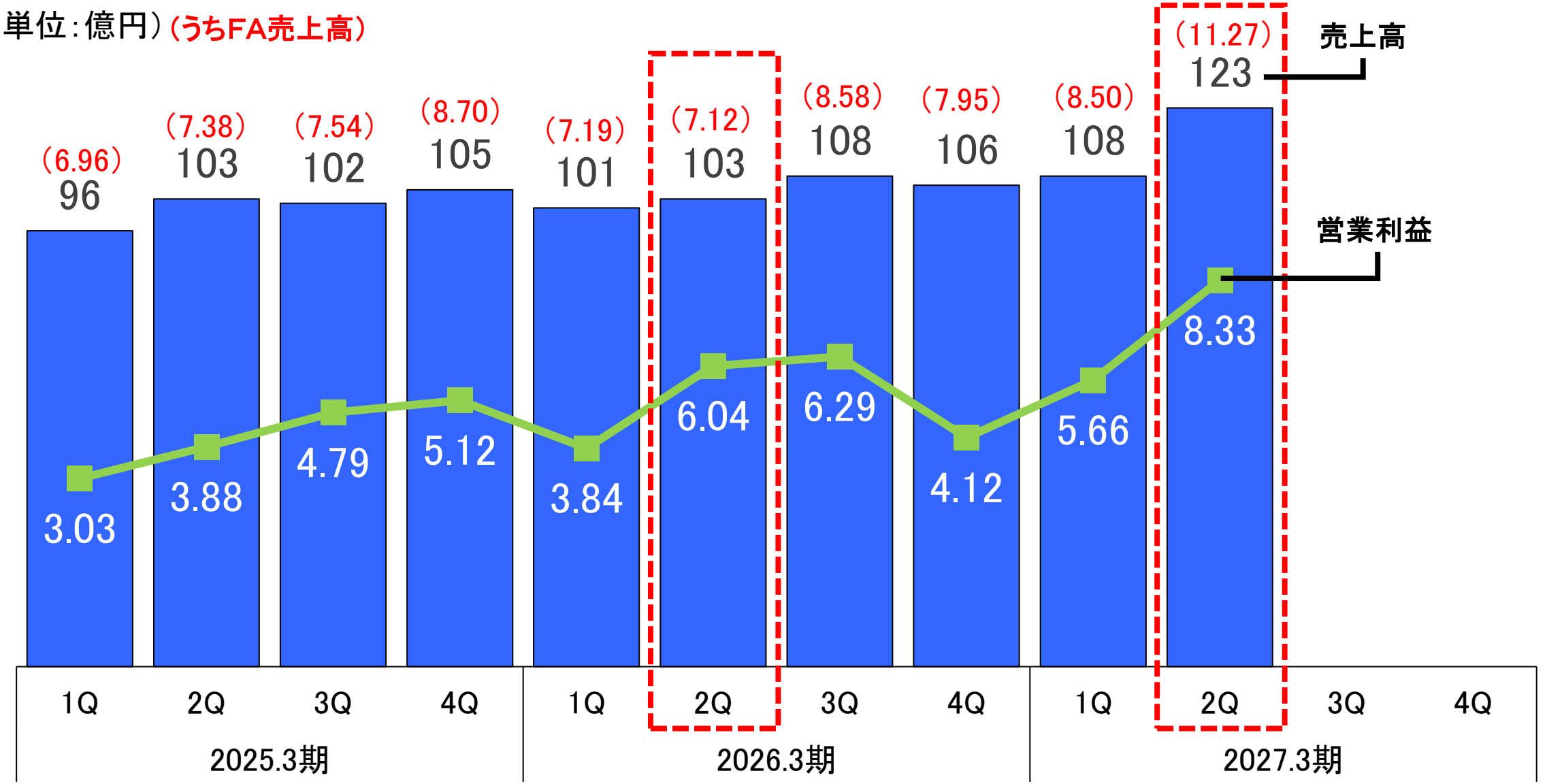


ホルダーガイドポスト関連
上型と下型の関係を正しく保つために使用する。

© PUNCH INDUSTRY

売上高と営業利益の推移

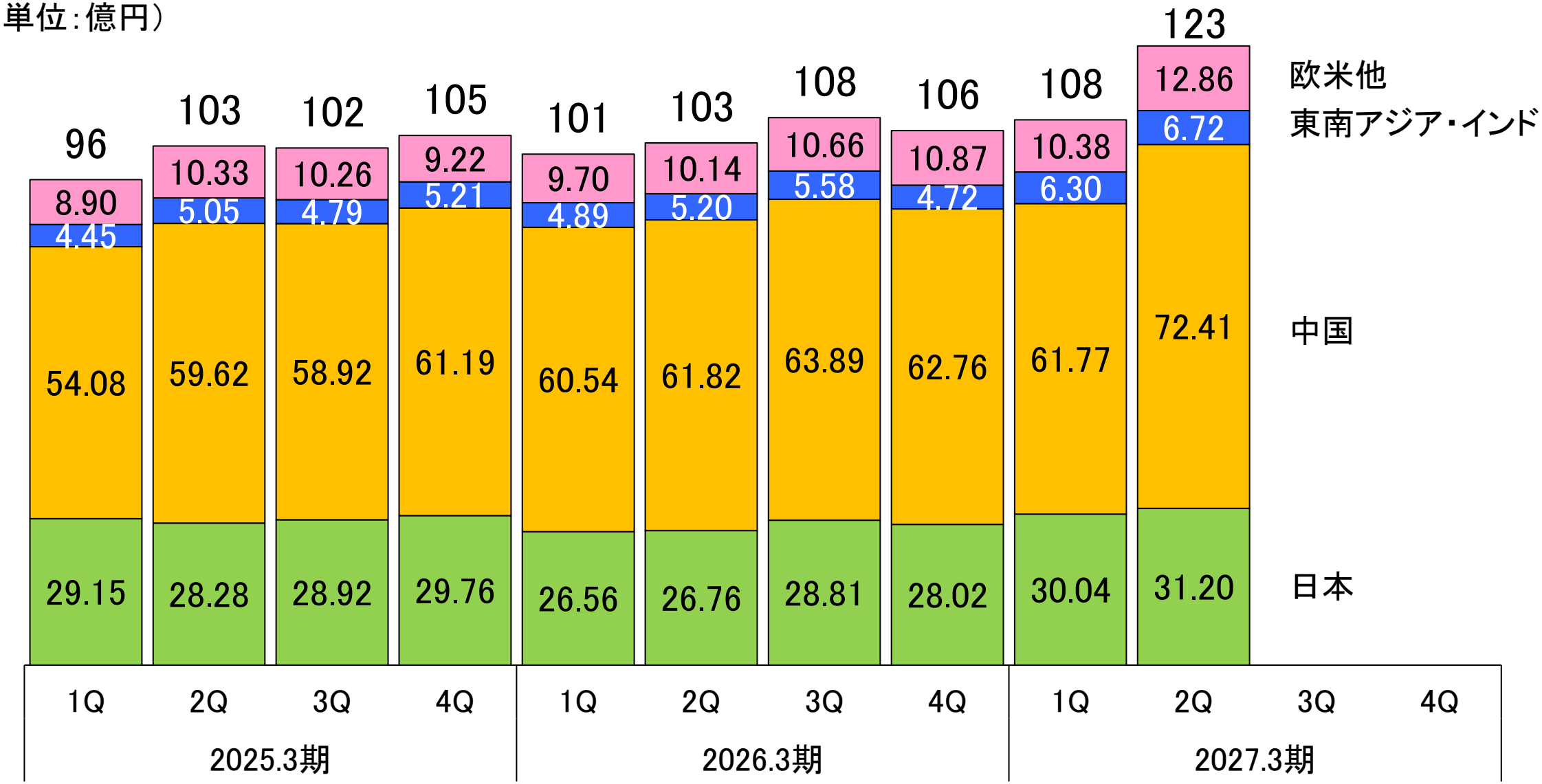
（単位：億円）（うちFA売上高）



© PUNCH INDUSTRY

地域別売上高

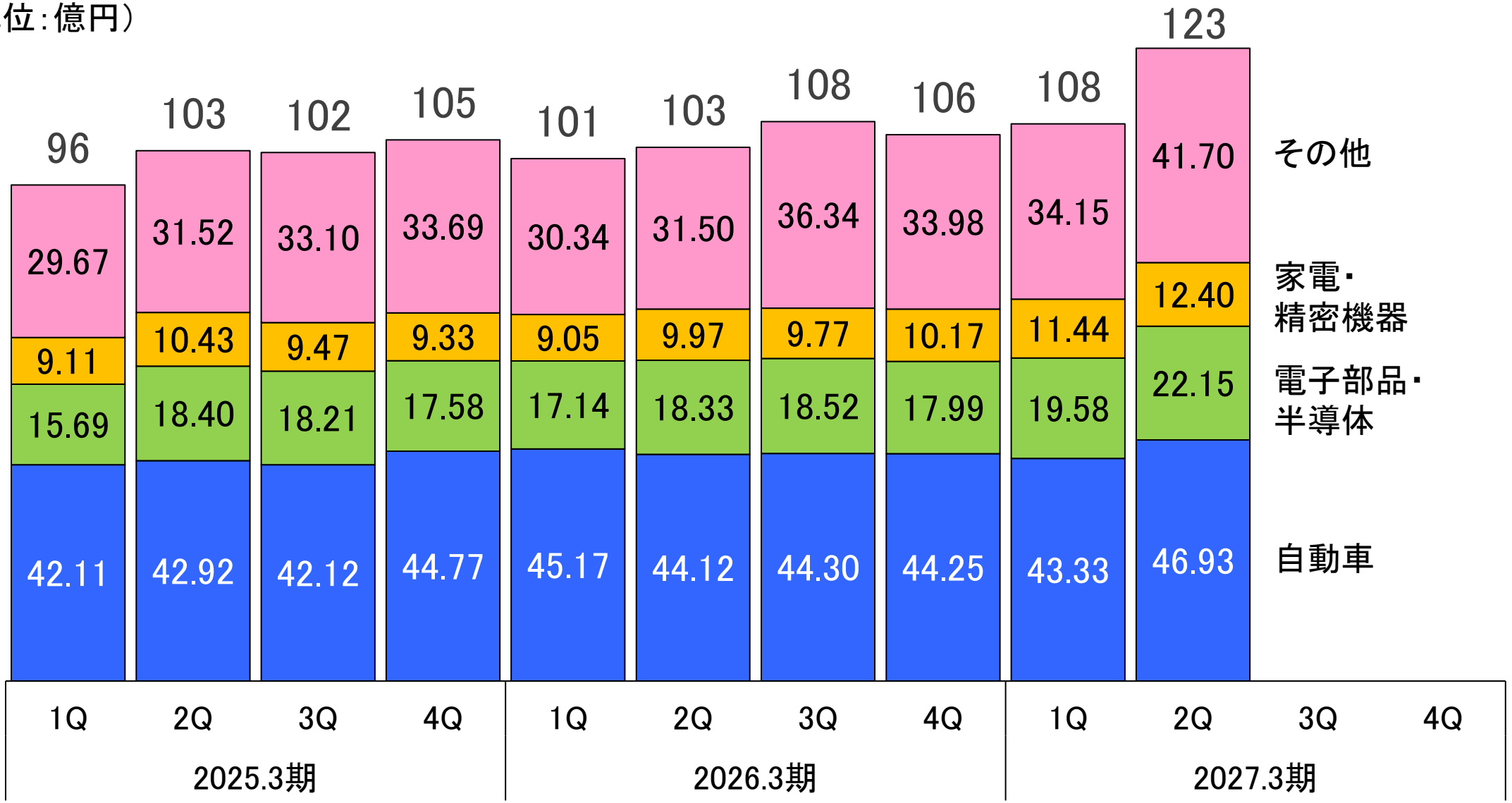
（単位：億円）



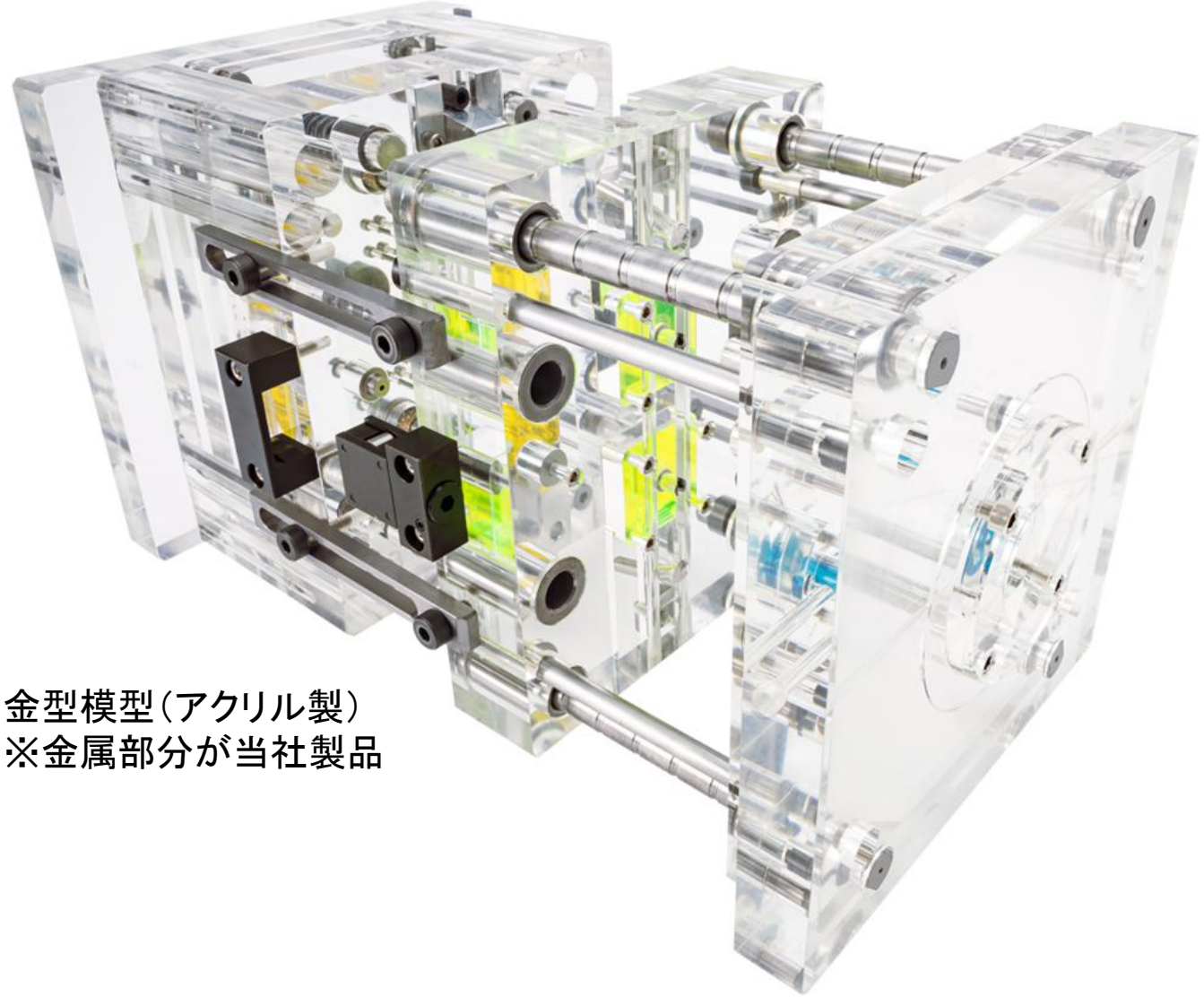
© PUNCH INDUSTRY

業種別売上高

（単位：億円）



© PUNCH INDUSTRY



金型模型（アクリル製）
※金属部分が当社製品

【IRに関するお問い合わせ先】 パンチ工業株式会社　コーポレート・コミュニケーション部　広報IR課　電話：03-5753-3130　　e-mail：info-corp@punch.co.jp

【将来見通し等に関する注意事項】
本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。